

北見市における景気動向調査報告書

< 第 III 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 令和2年 1月17日

(2) 調査対象期間 令和元年10月～12月期実績および令和2年1月～3月期見通しについて調査した。

2. 調 査 対 象

北見市に所在する製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を対象に、往復ハガキにより調査した。

3. 回 収 状 況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30社	23社	76.6%
建 設 業	30社	25社	83.3%
卸 売 業	30社	24社	80.0%
小 売 業	35社	21社	60.0%
サービス業	25社	15社	60.0%
合 計	150社	108社	72.0%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II. 概 況

《 全 体 の 動 き 》

令和元年度第Ⅲ四半期<10月～12月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」13.9%、「悪化企業」38.9%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△25.0となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期比△30.2→今回△25.0と5.2ポイントの好転傾向を示しました。また、前期<第Ⅱ四半期>との比較では、前期△12.8→今回△25.0と12.2ポイントの悪化となりました。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△17.3、建設業D・I値△24.0、卸売業D・I値△33.3、小売業D・I値△33.4、サービス業D・I値△13.3となっており、前年同期調査と比較すると、サービス業で18.0ポイント、卸売業で14.6ポイント、建設業で7.9ポイント、製造業で3.5ポイントの改善が見られましたが、卸売業のマイナス値は未だ高く、予断を許さない状況が続いています。また、小売業は14.3ポイントの大幅な悪化となっており、厳しい状況が伺えます。

なお、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」11.1%、「悪化企業」47.2%でD・I値△36.1と、前年同期(△22.7)に比べ13.4ポイント悪化となり、依然厳しさが伺える来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」17.4%、「減少企業」34.8%、D・I値△17.4と前年同期に比べ9.1ポイントの悪化となりました。

採 算

前年比で「好転企業」26.1%、「悪化企業」39.1%、D・I値△13.0と前年同期に比べ3.7ポイントの好転となりました。

来期見通し

業況D・I値△21.8、生産高D・I値△13.0、資金繰りD・I値13.1と前年同期に比べ全てのD・I値で悪化傾向を示し、非常に厳しい来期見通しとなっています。

2) 建設業

完成工事高

前年比で「増加企業」20.0%、「減少企業」48.0%、D・I値△28.0と前年同期に比べ0.7ポイントの悪化となりました。

採算

前年比で「好転企業」12.0%、「悪化企業」40.0%、D・I値△28.0と前年同期に比べ12.9ポイントの大幅な好転を示しました。

来期見通し

業況D・I値△40.0、完成工事高D・I値△36.0、資金繰りD・I値△16.0と前年同期に比べ全てのD・I値で悪化傾向を示し、非常に厳しい来期見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」16.6%、「減少企業」41.7%、D・I値△25.1と前年同期に比べ27.1ポイントの大幅な好転を示し、未だマイナス値ではあるものの、改善の兆しが伺える結果となりました。

採算

前年比で「好転企業」8.3%、「悪化企業」37.5%、D・I値△29.2と前年同期に比べ5.6ポイントの好転を示しました。

来期見通し

業況D・I値△50.0、売上高D・I値△50.0、資金繰りD・I値△16.6と前年同期に比べ全てのD・I値で悪化傾向を示し、非常に厳しい来期見通しとなっています。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」19.0%、「減少企業」42.9%、D・I値△23.9と前年同期と比べて4.8ポイントの悪化となりました。

採算

前年比で「好転企業」14.3%、「悪化企業」47.6%、D・I値△33.3と前年同期と比べて9.5ポイントの悪化を示しました。

来期見通し

業況D・I値△23.8、売上高D・I値△19.1、資金繰りD・I値△19.1と、前年同期と比べて全てのD・I値で悪化傾向を示し、非常に厳しい来期見通しとなっています。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」20.0%、「減少企業」46.7%、D・I値△26.7と前年同期と比べ1.6ポイントの悪化とほぼ横ばいの結果となりました。

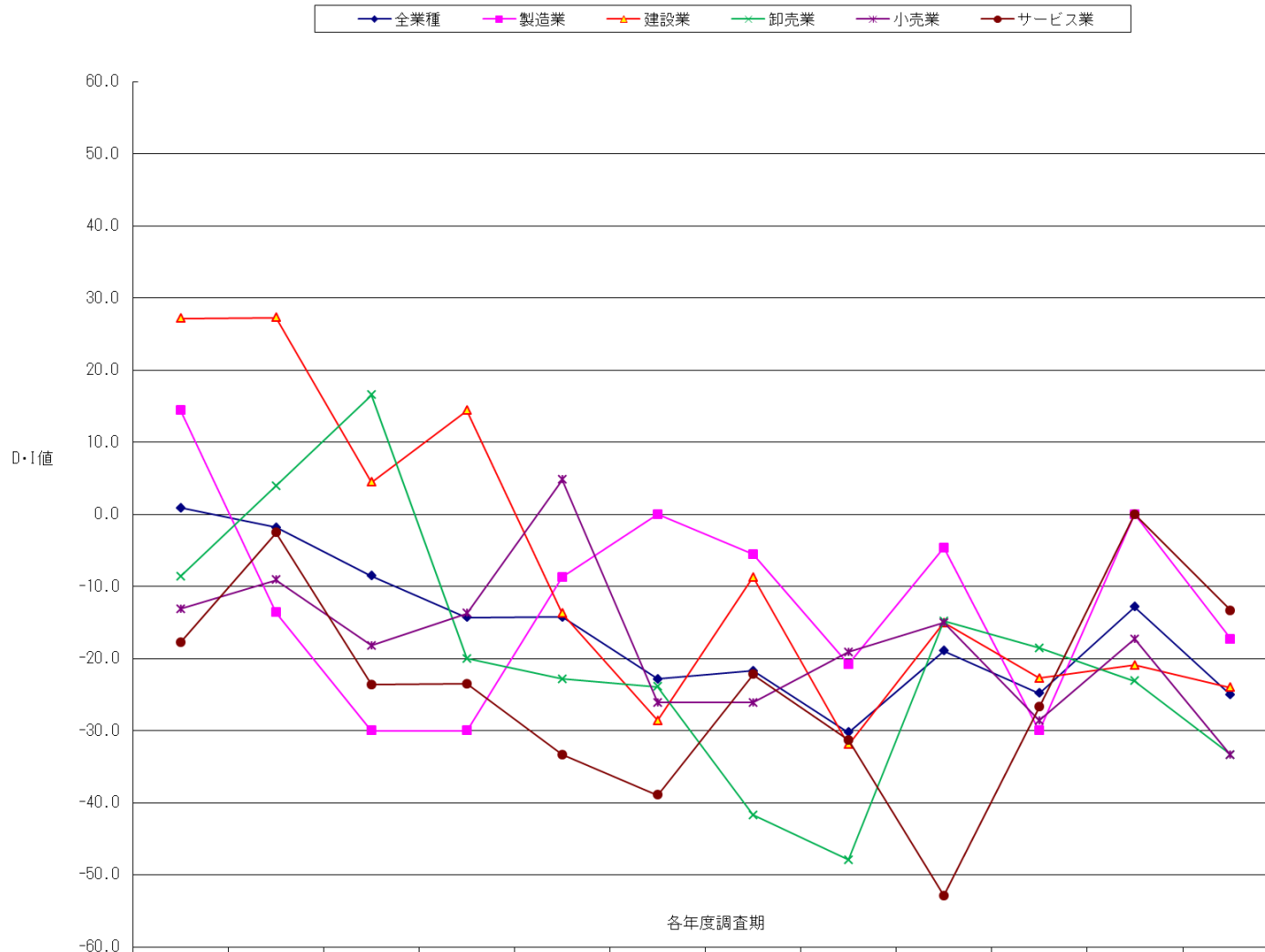
採算

前年比で「好転企業」13.3%、「悪化企業」46.7%、D・I値△33.4と前年同期に比べ13.2ポイントの大幅な好転を示しました。

来期見通し

業況D・I値△46.6、売上高D・I値△46.6、資金繰りD・I値△26.6と前年同期と比べ、全てで好転を示しました。

各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



	各年度調査期												
	29.1~3 平成28年度Ⅳ	29.4~6 平成29年度Ⅰ	29.7~9 平成29年度Ⅱ	29.10~12 平成29年度Ⅲ	30.1~3 平成29年度Ⅳ	30.4~6 平成30年度Ⅰ	30.7~9 平成30年度Ⅱ	30.10~12 平成30年度Ⅲ	31.1~3 平成30年度Ⅳ	31.4~1.6 令和元年度Ⅰ	1.7~1.9 令和元年度Ⅱ	1.10~1.12 令和元年度Ⅲ	
◆ 全業種	0.9	-1.8	-8.5	-14.3	-14.2	-22.8	-21.7	-30.2	-18.9	-24.8	-12.8	-25.0	
■ 製造業	14.4	-13.6	-30.0	-30.0	-8.7	0.0	-5.5	-20.8	-4.6	-30.0	0.0	-17.3	
▲ 建設業	27.2	27.3	4.5	14.4	-13.7	-28.6	-8.7	-31.9	-15.0	-22.7	-20.9	-24.0	
× 卸売業	-8.6	4.0	16.6	-20.0	-22.8	-23.9	-41.7	-47.9	-14.8	-18.5	-23.1	-33.3	
＊ 小売業	-13.1	-9.1	-18.2	-13.7	4.8	-26.1	-26.1	-19.1	-15.0	-28.6	-17.3	-33.4	
● サービス業	-17.7	-2.5	-23.6	-23.5	-33.3	-38.9	-22.2	-31.3	-52.9	-26.7	0.0	-13.3	

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
卸 売 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
小 売 業	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少	人 件 費 増	諸 経 費 増	人 材 不 足
サ ー ビ ス 業	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少
合 計	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

全業種で見ると、前回調査より「得意先減少」と「同業者間の競合」が入れ替わったものの、3位以上に変動はなく、地域の中で長期的な課題となっています。

業種別でも「諸経費増」と「人材不足」上位となっており、増税の影響などによるコストアップや人材の採用について苦慮されていることが伺えます。唯一小売業では「同業者間の競合」がトップ回答となっており、他業種にはない業界の課題となっていることが伺えます。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(製造) ○仕入れ資材の高騰及び不足。消費税10%への増税による利益の減少
 ○外注先の減少

(建設業) ○人材育成

(卸売) ○増税後の冷え込み。温暖化、雪の少なさによる影響
 ○運賃の上昇によるコスト増と利益の減少

(小売) ○異常気象による季節商品の売上減少

業況

※太字アンダーラインは複数企業が回答

- 製造業 ⇒ 好転（農産物加工、鋳物、一般機械）
悪化（木製品、飴、食肉加工、石材、農業機械）
- 建設業 ⇒ 好転（舗装、住宅）
悪化（土木）
- 卸売業 ⇒ 好転（事務機器）
悪化（青果、製菓製パン、酒、作業着、建築資材、医療機器、石油、金物）
- 小売業 ⇒ 好転（介護用品、生鮮）
悪化（食肉、酒類、紳士婦人服、家電、時計、絵画、火薬、食料品）
- サービス業 ⇒ 好転（そば、軽食）
悪化（クリーニング、建物清掃、理容）